

(別添 4)

【新地町】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

本町では、2010年から参画している様々な ICT 活用実証研究事業の成果を生かして、令和元年12月に国が打ち出したGIGAスクール構想を踏まえ、これまでの教育実践の蓄積と最先端のICTの活用のベストミックスを図ることにより、創造性を育む教育を持続的に実現し、教員及び児童生徒の力を最大限に引き出す本町のICT教育の未来像をめざし、新地町 ICT グランドデザインを設定している。

新地町 ICT 教育グランドデザインでは、授業改革、新しい学習活動、家庭学習の充実、教員の働き方改革の4つを目標の実現に向けたキーワードとして取組を進めている。

そのような中、学習支援アプリやデジタルドリル等を活用したり、調べ学習でインターネット上の資料を検索したりするなど、タブレット端末を活用した個別学習や協働学習を授業の中に組み込んだ授業実践を行うことで、授業改革や新しい学習活動に取り組んでいる。

学校におけるタブレット端末の活用については、児童生徒の意見をタブレット上で一斉に共有し、思考ツールを用いて考えを深めたり、グループでデータを共有したり、共同しながらプレゼンテーション資料を作成したりするなど、各校の授業実践における好事例を共有する中で、今後も授業や家庭学習におけるより効果的な活用について研究を進め、教育活動に活かしていきたい。

2. GIGA 第 1 期の総括

本町は平成22年度から ICT 活用教育の様々な実証研究事業に取り組んできた。児童生徒と教員の1人1台端末及び通信ネットワークの整備を実施し、児童生徒が日常的に必要な「学びの道具」として各種デジタルツールを活用できる環境にある。

令和4年度からは、AI コンテンツを町内全小中学校で導入した。様々なデジタルツールの特性を踏まえた日常的な実践に各校が積極的に取り組んでおり、町内での教員互見授業により好事例を共有する機会になっている。授業改善に取り組む教員の意識が更に高まっている。

教員の転出入等により学校間、教員間で授業での活用や持ち帰り学習の頻度に差があり、継続的によりよい活用方法を探究していく必要がある。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

本町はこれまでも、新地町 GIGA スクールビジョンのもと、児童生徒の1人1台端末の有効活用を推進するために、新地町 ICT 活用協議会において体制を整え、各校の実践計画を立て実践研究に取り組んできた。その成果を毎年11月に開催する「新地町 ICT 活用発表会」において県内外の参加者にその成果を公開し普及に努めている。

町で統一して導入しているアプリを中心に、各校の実践を担当者会にて町内4校で共有し、よりよい活用方法を研究することで、町内全教員のタブレット端末の活用頻度の向上を図っている。

今後もより良い活用方法について継続して共有するとともに、個別最適な学びや協働的な学びを促進し、児童生徒の学力向上や情報活用能力を向上させたい。